

I 2012 年度認証評価 努力課題に対する改善計画（報告）書

| No | 基準項目 | 4. 教育内容・方法・成果 |
|----|--------------------|---|
| 1 | 大学基準協会からの指摘事項 | 大学院博士後期課程において、人文科学、国際文化、経済学、法学、政治学、社会学、経営学、政策科学、工学、情報科学の 10 研究科は、コースワークを適切に組み合わせたカリキュラムとはいえないので、課程制大学院の趣旨に照らして、同課程にふさわしい教育内容を提供することが望まれる。 |
| | 評価当時の状況 | コースワークとして、自らが所属する研究領域で指導教員による「特別研究」、「特別演習」を設定していた。 |
| | 改善計画・改善状況 | 2016 年度から博士後期課程にコースワークを導入した。各教育研究領域にリサーチワークとして特別研究と特別演習を置き、さらにコースワークとしてプロジェクト科目を設置して両者を組み合わせた教育課程を行うものである。コースワークは、問題解決能力を育成するものと位置付けており、リサーチワークは文字通り自身の研究能力を向上させるだけでなく、研究指導能力までも養成すると位置付けている。 |
| | 改善状況を示す具体的な根拠・データ等 | ・第 217 回情報科学研究科教授会議事録 ・大学院学則 |

II 2015 年度大学評価委員会の評価結果への対応

【2015 年度大学評価結果総評】

情報科学研究科は、上述の通り、大学院教育の質向上を目指し、多岐に渡った独自の取り組みを実施している。表彰制度を設けた修士論文中間発表会、シングルトラックでの修士論文発表会、博士論文予備審査委員会主査の指導教員以外からの選出は特筆に値するものであり、今後の継続を期待する。在外研究に関わる諸問題を解決するための副指導制の導入、大学基準協会からの指摘にもある博士後期課程へのコースワークの導入、情報科学部のカリキュラム改革に伴う研究分野の再編、ダブルディグリープログラムの更新など、今後の取り組むべき課題も明確になっており、これまで通りの精力的な取り組みが期待できる。

改善すべき事項は以下の通りである：

- ・評価基準「成果」における達成指標に、昨年度と同様、学生の国内外別発表件数およびインターンシップ参加人数を追加することが望ましい。これらの数値指標は、教育目標に「情報科学分野の専門技術を習得し国際的に通用する研究者、高度技術者の育成に努める」を掲げて学外発表やインターンシップを推奨している情報科学研究科にとって、成果を客観的に捉え得る指標であり、年度に関わらない指標として継続すべきであると思われる。
- ・履修指導の一環として、ホームページへの履修モデルの掲載などの対応が望まれる。
- ・学生の受け入れ方針における「開講科目を受講するのに必要な知識」は、これから学ぼうとする志願者にとって不明確であると思われるので、改善が望まれる。

【2015 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400 字程度まで）

改善点等について、下記に回答する。

- ・評価基準「成果」における達成指標に関しては、2015 年度の学生の国内外別発表件数を本シートに記載する。インターンシップ参加人数に関しては、2016 年度からインターンシップ科目を新設することで参加人数を正確に把握して次回から参加人数を記載する。これらの改善により、「情報科学分野の専門技術を習得し国際的に通用する研究者、高度技術者の育成に努める」という教育目標が守られているか、成果を客観的に捉えられるようにする。
- ・履修指導の一環としてのホームページへの履修モデルの掲載に関しては、ホームページの見直しを行うタイミングで必要なデータを準備して公表することを考えている。2016 年度からそのための準備作業を開始する。
- ・学生の受け入れ方針における「開講科目を受講するのに必要な知識」に関しては、履修推奨科目などシラバスへの記載の徹底を行うとともに、授業初回のガイダンスなどを利用して明確化を図る。

III 自己点検・評価

1 教員・教員組織

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【教員像および教員組織の編制方針】（2011年度自己点検・評価報告書より）

大学の建学の精神である「自由と進歩」を旗印として、専任教員全員が教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの設定に参画することにより、情報科学研究科の理念・目的を教員全員が共有し、各自の専門領域での研究を深耕するとともに、新しいカリキュラムに従って責任ある学生教育を行なうことができる教員集団を構成することに配慮している。

多様かつ進歩の早い情報科学分野に立脚する情報科学研究科では、教員組織の編制にあたって、研究科の理念、目的を十分理解し、新技術分野への対応も可能な人材を集め、主要な科目は殆ど専任教員で授業できるよう配慮している。専任教員の採用に当たっては公募によって広く世界から人材を求める。公正かつ適切さを担保するため、人事選考委員会、人事委員会の2段階選抜方式を採る。それぞれの委員会で絞り込まれた候補者が教授会にて2度の議決を経て選出される。

1.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。

①採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。

はい いいえ

【根拠資料】 ※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。

- ・情報科学研究科教員資格内規

②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。

はい いいえ

【研究科執行部の構成、研究科内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】 ※箇条書きで記入。

- ・研究科執行部：研究科長（兼専攻主任）、専攻副主任：研究科活動の計画と執行
- ・主任会議：研究科長、学部執行部、CS/DM 学科主任：研究科活動の集約と調整。原則月2回開催
- ・教授会：全教員で原則月2回開催

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・法政大学大学院情報科学研究科教員規定

1.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

①研究科（専攻）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。

はい いいえ

（～400字程度まで） ※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性等の観点から教員組織の概要を記入。

教員像については採用にあたり、情報科学研究科教員資格内規に従い、適切な資質を持った専門科目教員を採用している。また、教員募集前に、学部懇談会を開き、募集領域の研究・教育分野の適切性を議論している。この結果、カリキュラムと整合性が高く、バランスの保たれた教員組織となっている。外部に向け「情報科学研究科ホームページ」から、4つの研究領域と教員の対応を示して公開している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・情報科学研究科教員資格内規
- ・情報科学研究科ホームページ：<http://cis.k.hosei.ac.jp/gs/>

2015年度研究指導教員数一覧（専任）

（2015年5月1日現在）

| 研究科・専攻 ・課程 | 研究指導 教員数 | うち教授数 | 設置基準上必要教員数 | |
|---------------|-------------|-------|-------------|-------|
| | | | 研究指導 教員数 | うち教授数 |
| 修士 | 23 | 23 | 5 | 3 |
| 博士 | 22 | 22 | 4 | 3 |
| 研究科計 | 45 | 45 | 9 | 6 |

研究指導教員1人あたりの学生数：修士2.09人、博士0.23人

②特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。

はい いいえ

【特記事項】（～200字程度まで） ※ない場合は「特になし」と記入。

教員採用にあたり、現在の学部教員の年齢構成を考慮し、できるだけ同年齢が重ならなく、かつ、若い教員を採用することを配慮している。結果として、年齢構成が高年齢化しない教員構成を維持できている。

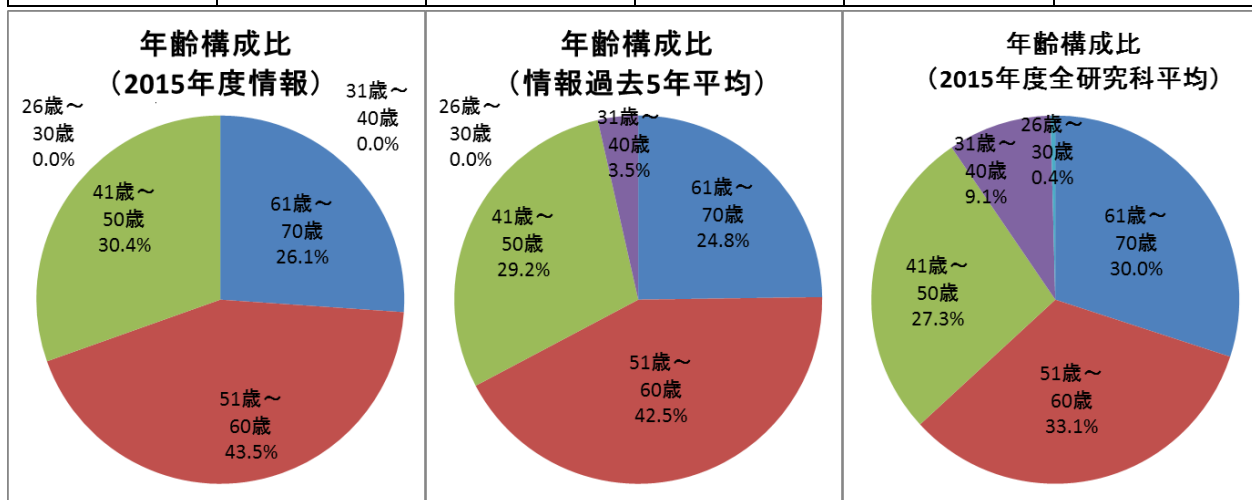
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・下記の年齢構成一覧参照

専任教員年齢構成一覧

(5月1日現在)

| 年度\年齢 | 26～30歳 | 31～40歳 | 41～50歳 | 51～60歳 | 61～70歳 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 2015 | 0人 | 0人 | 7人 | 10人 | 6人 |
| | 0.0% | 0.0% | 30.4% | 43.5% | 26.1% |



1.3 教員の募集・任免・昇格は適切に行われているか。

①大学院担当教員に関する各種規程は整備されていますか。 はい いいえ

【根拠資料】※大学院担当教員に関する規程・内規等の名称を箇条書きで記入。

- ・情報科学研究科教員資格内規
- ・情報科学部人事委員会細則
- ・情報科学部人事選考委員会細則

②規程の運用は適切に行われていますか。 はい いいえ

【教員の募集・任免・昇格に関する学部教授会との連携体制】※教員の募集・任免・昇格に関し、学部教授会とどのような連携が行われているか概要を箇条書きで記入。

- ・募集については、学部教授会において、人事選考委員会と人事委員会を独立に組織して、選考と資格審査(法令および人事規程に合致するか判定)を進めている。
- ・昇格については、学部教授会において、教授資格のための条件を明記し、運用している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・情報科学研究科教員資格内規
- ・情報科学部人事委員会細則
- ・情報科学部人事選考委員会細則

1.4 教員の資質向上を図るための方策を講じているか。

①研究科(専攻)内のFD活動は適切に行われていますか。 A B C

【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

- ・「オープンセミナー」は、教員の研究テーマについて交流する場として、全教員のプレゼンテーションを2年間で1周回る形式で行っている。原則、全教員の参加が求められる。
- ・隔週開催の主任会議でその時々の問題点を抽出し、改善に向けた取り組み(対策)を講じている。より大きな問題については、研究科に設置された質保証委員会に付託して突っ込んだ議論をし、教授会でさらに議論・決議し、対策を実行している。ガイドラインや内規としてまとめ直して運用することもある。

【2015年度のFD活動の実績(開催日、場所、テーマ、内容(概要)、参加人数等)】※箇条書きで記入。

- ・オープンセミナー(春学期の隔週金曜3限、教員の研究活動の発表、原則的に教員全員参加)
- ・主任会議:隔週水曜日、その時々の問題点と改善策の検討、主任会議メンバー

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・情報科学オープンセミナー <https://cis.k.hosei.ac.jp/gs/course/master/openseminar.html>

②研究活動を活性化するための方策を講じていますか。 A B C

【研究活動活性化の取り組み】※箇条書きで記入。

- ・資格を持つ教員が早い時期に在外研究を行うことを奨励
- ・入学者を増やす（院生数を増加させる）対策
 - 1) 学外研究発表の奨励
 - 2) 学会参加旅費、登録費の補助
 - 3) 就職活動のサポート（情報提供、インターンシップ参加の奨励）
- ・学外研究資金への応募を奨励
- ・副指導制の導入
- ・博士後期課程へのコースワークの導入（指導教員とは異なる2つの研究領域から選択）

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・情報科学研究科「法政大学大学院教育研究補助金」支給に関する内規

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

| 内容 | 点検・評価項目 |
|--|---------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・副指導制の導入 ・博士後期課程へのコースワークの導入 | |

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

- ・今後数年にわたり、毎年、定年退職に伴う教員採用人事を行う必要があり、将来ビジョンに基づき、変革に対応できる教員採用ガイドラインの見直しを学部と協力して進める。
- ・国際化対応の一環として、留学生受け入れ体制の検討を継続的に進める。

【この基準の大学評価】

情報科学研究科では採用・昇格の基準等において、教員に求める能力・資質等が明らかにされている。組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在も明確にされている。

研究科のカリキュラムにふさわしい教員組織が備えられるとともに、特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮されている。特に若い教員を採用することに配慮している点は評価できる。

大学院担当教員に関する各種規程は、3種類の規則が整備されており、評価できる。規程の運用も適切に行われている。

FD活動が適切に行われており、特に全教員の研究交流の場として設定されている「オープンセミナー」については、春学期に隔週2名が報告しており、その後の懇談会で内容についても話し合いが行われるなど、高く評価できる。また、研究活動を活性化するための方策が講じられている。

2 教育課程・教育内容

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【教育課程の編成・実施方針】

修士（博士前期）課程では、専攻分野の周辺をカバーしつつ、高度な知識・技術を獲得できるよう、カリキュラムを編成する。具体的には以下の項目を考慮してカリキュラムを編成する。

- ・分野を複数の研究領域に分類し、それぞれの領域で最新の教育が行われるようにカリキュラムを編成する
- ・学部課程で情報科学・技術を専門としていない入学者に対しては、情報科学・技術の主要な学部科目を履修できるよう柔軟なカリキュラムを編成する
- ・国際化に対応したカリキュラムを編成する

博士後期課程では、上記の項目に加えて、情報科学の分野全般を網羅する高度な知識・技術を獲得できるようコースワークを課す。研究や開発のプロジェクトにおいて指導力を発揮できる自立した研究者あるいは技術者としての資質を養うための演習を重視する。

2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

| | |
|--|--------|
| ①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。 | A B C |
| <p>(～400 字程度まで) ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせさせた教育課程の概要を記入。</p> <p>コースワークは 2 年間で 18 単位、リサーチワークは同じく 2 年間でオープンセミナー 2 単位、特別研究 1、2 各 3 単位で計 6 単位、特別演習 1、2 各 2 単位で計 4 単位の構成となっている。本研究科では、コースワークは主に修士論文作成に向けた研究の遂行に必要な専門知識の獲得と位置付けている。リサーチワークは実践的な研究能力の向上に資するものと位置付けている。学生は当該教育研究領域の開講科目と周辺領域での開講科目とから 18 単位分を修得する。各教育研究領域で開講される科目群は、英語で講義が行われるものと日本語で講義が行われるものが用意されており、学生は自身の能力に応じて選択するが、当該分野周辺の専門技術習得のために十分な技術基盤が得られるように配分している。リサーチワークにおいては、時間管理および進捗管理のため修士論文中間発表会を運用しており、それに続く修士論文発表会もシングルトラックで全教員が参加して行うなど、評価の公平性を保ちつつ、評価の厳格化を目指すことで修士論文の質の向上を図っている。</p> | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究科ホームページ : http://cis.k.hosei.ac.jp/gs/course/master/curriculum.html | |
| ②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。 | はい いいえ |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学院学則 ・ 第 217 回情報科学研究科教授会議事録 | |
| ③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。 | A B C |
| <p>(～400 字程度まで) ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせさせた教育課程の概要を記入。</p> <p>2016 年度から博士後期課程にコースワークを導入した。各教育研究領域にリサーチワークとして特別研究と特別演習を置き、さらにコースワークとしてプロジェクト科目を設置して両者を組み合わせさせた教育課程を行うものである。コースワークは、問題解決能力を育成するものと位置付けており、リサーチワークは文字通り自身の研究能力を向上させるだけでなく、研究指導能力までも養成すると位置付けている。今後、コースワーク導入の効果や改善点などを検討しつつ、早期修了制度とのすり合わせなど細部の詰めも行っていく。</p> | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学院学則 | |
| 2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。 | |
| ①専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。 | A B C |
| <p>(～400 字程度まで) ※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>コンピュータ情報科学にはコンピューティングに関する要素研究と、コンピュータ上において情報処理問題を扱うコンピュータシステム、さらに社会的ニーズに基づく対象をトータルシステムとして解決するための情報システムの教育研究がある。本研究科では、学部での教育の知識基盤（コンピュータ科学の基礎および構成要素、並列・知的計算、デジタルメディア処理、サイバースystem）の上に 3 つの研究領域と国際化対応を目指した 4 つ目の研究領域とを配置して専門技術習得のために十分な知識および技術基盤が得られるように教育課程を編成している。それぞれの領域のテーマと開講科目とを以下に示す。</p> <p>第 1 研究領域（コンピュータ基礎）：情報システムを構築するための並列コンピュータの構造論、ソフトウェア環境、暗号理論、ソフトウェア検証などの研究を行う</p> <p>第 2 研究領域（情報システム）：人工知能、進化計算、データマイニング、Web システム構築などの研究を行う</p> <p>第 3 研究領域（メディア科学）：音声・言語処理、パターン認識、形状モデリングなどの研究を行う</p> <p>第 4 研究領域（国際化対応情報科学）：国際化対応のための論文・発表技術、ソフトウェア技術者のための技術英語の書き方、Java によるビジネスアプリケーションシステム開発などの研究を行う</p> | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究科ホームページ : http://cis.k.hosei.ac.jp/gs/ | |
| ②大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。 | A B C |
| <p>(～400 字程度まで) ※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。</p> <p>中国ソフトウェア学院との間でダブルディグリープログラム（DDP）を行っているほか、英語で行う授業と日本語で行う</p> | |

授業とを用意しており、学生の能力に応じて選択できる。これら英語授業には例年日本人学生 5 人程度の履修実績があり、一般学生のグローバル化推進にも役立っている。また、外国人留学生を積極的に受け入れるよう、外国人特別入学制度を用意している。大学院学生に対する教育の一環として、英語でのコミュニケーション能力を養いグローバルな視点を持たせるため、海外学会での研究発表を強く奨励している。また、留学生にも正しい日本語と日本文化についての知識を与えるべきであるとの判断から、日本語理解 1、2 の科目（修了単位には数えない）を昨年度開設した。その他、国際化に対応した研究領域（第 4 研究領域：国際化対応情報科学）の新設や理工学研究科と共同での英語による学位授与プログラムの立ち上げ（9 月開設予定）に取り組んでいる。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・ 研究科ホームページ：http://cis.k.hosei.ac.jp/gs/course/area4.html
- ・ IIST ホームページ：http://iist.hosei.ac.jp/
- ・ GS-CIS 英語授業の日本人学生履修実績（内部資料）

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

| 内容 | 点検・評価項目 |
|---------------------|---------|
| ・ 博士後期課程へのコースワークの導入 | |

(3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※（1）および（2）の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

- ・ 今後、新たに導入したコースワークの効果や改善点などの検討
- ・ ホームページへの履修モデルの掲載やコースワークの解説などを行い、履修指導の強化

【この基準の大学評価】

情報科学研究科では研究領域を 4 つに設定し、十分な知識と技術基盤が得られるように教育課程が編成されている。修士課程では、修士論文作成に関わる専門知識を身に付けるために講義科目 18 単位と研究能力向上のためのオープンセミナー、特別研究、特別演習を 2 年間で修得するように設計されている。また博士後期課程においては、各領域特別研究 1、2、3（必修、計 9 単位）と各領域特別演習 1、2、3（必修、計 6 単位）を 3 年間で修得するように設計されている。授業科目が単位化され、修了要件とされている。博士後期課程において、リサーチワーク（専門領域の研究）とコースワーク（自分の領域とはことなる領域の先生の授業を受講する）が適切に組み合わせられて、教育が行われている。

専門分野の高度化、特に情報分野の急速な技術的発展に対応した教育が行われている。また、大学院教育のグローバル化推進のための取り組みが実施されている。たとえば、英語での授業、IIST プログラムへの参画、国際会議での発表の推奨などである。資格のある教員の在外研究を奨励していることは評価できる。

3 教育方法

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。

① 学生の履修指導を適切に行っていますか。

A B C

【履修指導の体制および方法】※箇条書きで記入。

- ・ 学習面では、第 4 研究領域に配置された科目（英語で講義を実施）を含めてより充実したカリキュラムが運用され、専任教員だけでなく企業からも講師を招いていることから、学生のより広範囲に渡る研究領域の俯瞰が可能となっている。
- ・ 学生は、自身の研究テーマにおいて問題解決に必要な専門技術習得のため、自主的にもしくは指導教員の指導の下に履修科目を選定している。
- ・ 指導教員は定期的に研究進捗報告を受けて、適切な助言や学習指導を行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・ 研究科ホームページ：http://cis.k.hosei.ac.jp/gs/course/area4.html

② 研究科（専攻）として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。

はい いいえ

| | |
|---|---|
| <p>【研究指導計画の明示方法】 ※箇条書きで記入（ここでいう「研究指導計画」とは、個別教員の研究指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導を指す（学位取得までのロードマップの明示等））。</p> <p>「情報科学特別研究」においてシラバスを作成し、Web上で公開している。また、ダブルディグリープログラムの学生については、毎年対象者に、受け入れ教員の専門分野、これまでの研究のテーマ（研究内容）、必要となるプログラミング言語などを一覧表として配布し、指導教員を選ぶ際の資料としている。</p> | |
| <p>【根拠資料】 ※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。</p> <p>・研究科ホームページ：http://cis.k.hosei.ac.jp/gs/course/program/master/</p> | |
| ③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。 | はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> |
| <p>(～400字程度まで) ※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。</p> <p>学生は修士課程2年間で少なくとも1回は学外研究発表を行うことを前提に研究指導が行われている。指導教員に研究進捗状況を報告するとともに、それに応じた指導を受ける。ダブルディグリープログラムの学生についても同様の方法で指導を進めているが、特に外国人留学生については、2011年度に全研究科で導入された「チューター制度」を通じて先輩が後輩を指導することによって、研究以外に必要な情報も受け継がれ、ダブルディグリープログラムの学生がより主体的に研究に取り組むことができる環境を整備している。</p> | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p> | |
| 3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。 | |
| ①シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。 | はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> |
| <p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。</p> <p>・質保証委員会と執行部が協力して全教員分を閲覧しチェックしている。</p> | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・第301回教授会議事録</p> | |
| ②授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。 | はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> |
| <p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。</p> <p>・授業改善アンケートにて確認している。</p> | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・第308回教授会議事録「2015年度授業改善アンケート情報開示請求」</p> | |
| 3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。 | |
| ①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。 | A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> |
| <p>【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <p>・シラバスで事前告知した基準に基づき、成績評価を行っている。</p> <p>・成績の確認においては、入力ミス等に対して、学生側と教員側双方にミス対策を用意し、申告に基づき教授会での成績訂正手続きが公正に実施されている。</p> <p>・ダブルディグリープログラムにおける単位認定については、先方の大学院シラバスと当方のシラバスとを対比させて厳密に単位認定を行っている。</p> <p>・副指導制度を導入し、合議で成績評価を行っている。</p> | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p> | |
| 3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。 | |
| ①教育成果の検証を研究科（専攻）ごとに定期的に行っていますか。 | A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> |
| <p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <p>・研究科として、修士1年生での修士論文中間発表会と、修士2年生での修士論文発表会とを学生の教育成果の検証の機会と位置付けている。</p> <p>・中間発表会はポスター形式の発表であるため、時間をかけて評価でき、学生同士の評価も行われるので、学生に対するフィードバック効果も大きい。</p> | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・研究科ホームページ：https://cis.k.hosei.ac.jp/sotsuken-thesis/public/2016/thesis/graduate/march/index.html</p> | |
| ②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。 | A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> |

【利用方法】 ※箇条書きで記入。

- ・学生による授業改善アンケートを教育内容・方法の改善のための有力なツールと位置づけ、活用している。
- ・講義内容に関しては、技術の進展が早い分野であるので日々見直しを行っており、適宜教授会や懇談会などの場で方向性を議論し、新規教員採用時、および次期semester兼任講師への講義依頼時にその検討結果を反映させている。
- ・専任教員の間においては、オープンセミナーを教員相互の教育・研究の情報交換の場と位置づけ、相互の教育・研究の活性化や相互の連携を図る場として活用している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・オープンセミナー日程：<http://cis.k.hosei.ac.jp/gs/course/master/openseminar.html>

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

| 内容 | 点検・評価項目 |
|-----------|---------|
| ・副指導制度の導入 | |

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

- ・特になし

【この基準の大学評価】

情報科学研究科の学生の履修指導は指導教員を中心に適切に行われている。研究指導計画は「情報科学特別研究」のシラバスとして作成され、公開されている。また、研究指導計画に基づく論文研究指導が行われている。特に、修士課程 2 年間のうち 1 回は学外で研究発表を行うことを前提に指導が行われていることは評価できる。

シラバスが適切に作成されているかについては、質保証委員会および執行部により検証が行われている。また、授業がシラバスに沿って行われているかの検証については、授業改善アンケートが利用されている。

成績評価と単位認定については、シラバスに明示された基準に基づき、適切に行われている。成績に誤りがあった場合の対策やダブルディグリープログラムの単位認定についても適切である。

教育成果については、修士論文中間発表会および修士論文発表において検証されているが、特にポスター形式の発表で行われる中間発表会は学生同士の評価が行われることもあり、学生のモチベーションを高めるという意味でも高く評価できる。

学生による授業改善アンケート結果については、技術の進展の早い分野での講義内容の見直しに活用されており、評価できる。

4 成果

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【学位授与方針】

修士（博士前期）課程では、所定の単位を修得し、修士論文の審査に合格することで学位が授与される。この場合の審査は、独創性や創造性を要求する研究タイプと、高度な情報科学技術を駆使してプロジェクトを遂行できる能力を要求する開発タイプとで行う。両タイプとも、専門分野で十分な素養を身に付けていることが審査の前提となるが、前者では、新規性のある概念等を構成できること、後者では、既存の概念を組み合わせて有用な成果物を生み出す技術力を重視する。

博士後期課程では、所定の単位を修得し博士論文の審査に合格することで学位が授与される。審査にあたっては、上記の基準に加えて以下の項目を考慮する。

- ・情報科学の分野全般で高度な素養をもち、新しい研究領域あるいは新しい応用領域の開拓を行う能力をもつこと
- ・新しい手法を提案するか、従来の手法の性能を著しく高めること

4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。

①学生の学習成果を測定していますか。

A B C

(～400 字程度まで) ※取り組みの概要を記入。

就職内定率は就職難の時代を迎えても高い値を示しており、これまでの取り組みが成果を上げている証左となっている。

同様に、学外発表件数も学習成果の指標として位置づけている。例えば、2015年度の学会発表件数は国内：延べ14件、海外：延べ6件である。学会発表件数に関しては今後も継続して報告することで客観的な評価を可能とする予定である。また、インターンシップに関しても2016年度から新設科目とすることで正確な参加人数の把握が可能となる。本人数に関しても今後掲載予定である。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

4.2 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。

①学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。

はい いいえ

【学位論文審査基準の明示方法】※箇条書きで記入。

- ・修士課程においては、修士論文審査にあたり、「法政大学学位規則」を順守し、主査および副査が修士論文発表会場で厳密に審査し、その後の教授会場で最終的な修了認定を行っている。審査基準を明確にするために、「情報科学研究科修士課程学位審査内規」を策定し運用している。また、修士論文のさらなる質向上を図るため、修士論文中間発表会を毎年開催し、さらに、修士論文発表会をシングルトラック化することにより修士論文評価の平準化と、学生の動機づけおよび論文自体のブラッシュアップを図っている。審査の基準は、毎年の年度初めのガイダンスで学生に周知させるとともに、指導教員は学生に対して審査基準を伝えるとともに、その基準を満たすように指導を行っている。
- ・博士後期課程については、審査委員会（研究科教授会）のもと、主査・副査3名以上で構成される審査小委員会が試験によって博士論文に関する学識を確認し、審査委員会にその結果を報告し、審査委員会で審議をしたのち、博士学位授与の可否を決定している。なお、主査は本学専任教員に限るが、2名以上の副査を合わせて、審査小委員会の委員総数の3分の1以内の範囲で学外者も副査に加えることができる。こうした審査基準は「情報科学研究科博士後期課程学位審査内規」および「博士学位申請資格対象となる学術誌及び学術会議基準」にまとめられており、修士課程同様に学生に周知させている。

【根拠資料】※学位論文審査基準にあたる文書の名称および冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。

- ・情報科学研究科修士課程学位審査内規
- ・情報科学研究科博士後期課程学位審査内規
- ・博士学位申請資格対象となる学術誌及び学術会議基準

②学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。

はい いいえ

【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】※箇条書きで記入。

- ・大学院在籍者数の確認は、年度初めに教授会に報告されている。
- ・学位授与率に関わる情報（退学者、休学者）については、届け出の後教授会の議題となっており、教授会で把握できる。
- ・また、院生の研究進捗状況については、オープンセミナーでの発表件数や教育研究補助金の申請件数によって間接的に把握している。
- ・中間発表会での討論では直接的に進捗を把握しており、これらの情報を総合することでその年度の学位授与見込み数（同時に在籍年数）を把握している。
- ・円滑な学位授与（既定の在学期間内に学位を取得すること）が可能となることを目的として、2014年度に「情報科学研究科博士後期課程における質保証のためのガイドライン」を策定し、運用している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・情報科学研究科博士後期課程における質保証のためのガイドライン

③学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。

A B C

(~400字程度まで) ※取り組み概要を記入。

修士課程の大学院生には、1年生の秋学期末ごろを目途に中間発表会を義務付けている。ポスター発表形式で開催し、研究活動内容を報告させるとともに、研究の内容や進捗度を評価し、優秀者を表彰している。優秀者を決める投票には、教員だけでなく参加院生も加わるため、大学院生同士も互いに評価し合うことになり、モチベーションを高める効果がある。また、博士後期課程においても、2014年度から学位申請を行っていない学生については、修士課程学生の場合と同様に中間発表を義務付けている。

④学生の就職・進学状況を研究科（専攻）単位で把握していますか。

はい いいえ

【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】※箇条書きで記入。

- ・修士論文指導教員が把握し、大学院の担当を兼ねる学部の就職担当がそれらを取りまとめて、教授会で共有している。更新の頻度は月1回である。
- ・スムーズな就職活動を目的として、大学院生へのインターンシップ参加を強く勧めている。さらに徹底するために、イ

ンターシップの単位化を2016年度から導入する。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・研究科ホームページ：<http://cis.k.hosei.ac.jp/gs/course/program/master/>

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

| 内容 | 点検・評価項目 |
|----------------|---------|
| ・インターンシップ科目の新設 | |

(3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※(1)および(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

情報科学研究科では、学会の発表数、資格試験の合格者数等で学生の学習成果を測定している。特に学外発表件数の高さは評価できる。

学位論文審査基準については、「情報科学研究科修士課程学位審査内規」で明らかにされている。学位授与状況は教授会で把握され、学生の研究進捗状況などについても適宜把握されている。学位の水準を保つための取り組みとして、修士論文発表会のシングルトラック化は修士論文の評価を平準化するものとして評価できる。また、ポスター発表形式で行われる修士論文中間発表により論文の質を高める努力がされるとともに、優秀者を決める投票に学生が参加することは大いに評価できる。

インターンシップは今年度からの単位化により参加者は増加しているが、その成果についての判断はもうしばらく時間を要するであろう。

就職・進学状況については、就職担当教員が指導教員経由で情報を取りまとめ、教授会で報告しており、適切である。中国ソフトウェア学院とのダブルディグリー・プログラムの設置は評価できる。しかしながら、その成果については、中国語のホームページに記載されているものの、日本語のホームページからの検索が難しいとのことで、改善の必要性が認識されている。改善を期待したい。

5 学生の受け入れ

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【学生の受け入れ方針】

修士（博士前期）課程では、情報科学分野を希望し、開講科目を受講するのに必要な知識を有する志願者を広く受け入れる。

修士後期課程の場合はさらに、以下の項目のいずれかを満たす志願者を受け入れる。

- ・国際会議等での発表経験があること、もしくは学会誌等への投稿実績があること
- ・修士論文における成果物等について、社会的に上記と同等の評価を得ていること

5.1 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

①定員の超過・未充足に適切に対応していますか。

はい いいえ

(～200字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入

最近、定員の超過よりも未充足が問題となっている。学部卒でもSEなどで就職先を見つけやすいことが理由と思われる。充足率を上げるため、学生には年度初めのガイダンスやプロジェクト紹介時など、機会のあるごとに大学院への進学を進めている。さらに、学部新生に対する父母懇談会の際には、子女の大学院への進学を父母へ直接勧める活動を行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

定員充足率（2011～2015年度）

（各年度5月1日現在）

【修士】

| 種別\年度 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 5年平均 |
|---------|------|------|------|------|------|------|
| 入学定員 | 30名 | 30名 | 30名 | 30名 | 30名 | — |
| 入学者数 | 34名 | 16名 | 13名 | 16名 | 15名 | — |
| 入学定員充足率 | 1.13 | 0.53 | 0.43 | 0.53 | 0.50 | 0.62 |
| 収容定員 | 60名 | 60名 | 60名 | 60名 | 60名 | — |
| 在籍学生数 | 66名 | 73名 | 58名 | 55名 | 48名 | — |
| 収容定員充足率 | 1.10 | 1.22 | 0.97 | 0.92 | 0.80 | 1.00 |

【博士】

| 種別\年度 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 5年平均 |
|---------|------|------|------|------|------|------|
| 入学定員 | 5名 | 5名 | 5名 | 5名 | 5名 | — |
| 入学者数 | 2名 | 2名 | 1名 | 0名 | 0名 | — |
| 入学定員充足率 | 0.40 | 0.40 | 0.20 | 0.00 | 0.00 | 0.20 |
| 収容定員 | 15名 | 15名 | 15名 | 15名 | 15名 | — |
| 在籍学生数 | 12名 | 11名 | 10名 | 6名 | 5名 | — |
| 収容定員充足率 | 0.80 | 0.73 | 0.67 | 0.40 | 0.33 | 0.59 |

5.2 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

①学生募集および入学者選抜の結果について検証していますか。

A B C

【検証体制および検証方法】※箇条書きで記入。

- ・まず、大学院入試問題の平準化を行い、作問者間で全体を取りまとめる担当を決め、年度によって問題のレベルがなるべく変動しないように運用している。
- ・その上で、入学者選抜の際には、志願者の成績を厳密に評価している。
- ・入学者選抜は教授会で行うため、それまでの演習の成績や卒業研究の進捗の程度と比較して入学者選抜の結果について検証できる体制となっている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

| 内容 | 点検・評価項目 |
|-------|---------|
| ・特になし | |

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

- ・充足率の向上策に関しては引き続き検討を行う

【この基準の大学評価】

情報科学研究科では定員の未充足が問題となっているが、情報科学部におけるガイダンス、プロジェクト紹介、父母懇談会を通じて進学を勧める活動を行っており、対応は適切である。

入学者選抜の際には志願者の成績を厳密に評価しており、内部進学希望者を対象とした学部成績と選抜結果との比較により検証を行っている。また、入試問題の平準化を行い、年度による問題のレベルの変動がないように工夫が行われている。

2017年度第1回目の入試では、すでに改善傾向が見られることから、上記の対策の効果について、期待したい。

6 学生支援

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生への修学支援は適切に行われているか。

①研究科（専攻）として外国人留学生への修学支援について適切に対応していますか。

A B C

(～400字程度まで) ※外国人留学生への修学支援に関する取り組みの概要を記入。

中国ソフトウェア学院との間で行っているダブルディグリープログラム（DDP）など、英語で行う授業と日本語で行う授業とを用意しており、学生の能力に応じて選択できる。また、外国人留学生を積極的に受け入れるよう、外国人特別入学制度を用意している。さらに、留学生の希望に基づき、昨年度から、日本語理解1、2の科目（修了単位には数えない）を新設した。グローバル化の観点からは、留学生にも正しい日本語と日本文化についての知識を与えるべきであるとの判断に基づくものである。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・研究科ホームページ：<http://cis.k.hosei.ac.jp/gs/course/area4.html>

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

| 内容 | 点検・評価項目 |
|-------|---------|
| ・特になし | |

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・外国人留学生の受け入れに関しては、修学支援のみに係らず、メンタルケアが必要と考える。今後、大学全体で組織的にサポート体制を構築していく必要があると考える。

【この基準の大学評価】

情報科学研究科では、英語での授業の実施、日本語教育の導入など、外国人留学生への修学支援について適切に対応されており、この点は高く評価できる。

7 内部質保証

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。

①質保証委員会は適切に活動していますか。

はい いいえ

【2015年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】 ※箇条書きで記入。

- ・質保証委員会の構成：数名からなる研究科教授会構成員
- ・開催日：情報科学研究科では、研究科の規模が大きいので、学部と共同で隔週開催の隔週水曜日に開催の主任会議を通常の質保証委員会と位置付けている。この会議では学部・研究科内の細部まで目を向けて、FD活動を行うとともに、質保証に関しての小規模な問題解決に向けた提案を教授会に対して行っている。
- ・研究科の方向性を決めるようなより大規模な問題に対しては、必要時に研究科教授会構成員からなる情報科学研究科質保証委員会に教授会として諮問し、答申を受理した後、答申に基づいて内規やガイドラインを策定し運用する体制をとっている。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

| 内容 | 点検・評価項目 |
|----|---------|
| | |

| | |
|-------|--|
| ・特になし | |
|-------|--|

【この基準の大学評価】

情報科学研究科では、執行部とは別に、学部と共同で行う主任会議が質保証委員会として位置づけられ活動が行われている。また、質保証委員会は諮問機関としての機能も有しており、研究科の方向性を決めるような大きな問題に対しては、教授会が質保証委員会に諮問したうえで、答申に基づいて情報科学研究科教授会が内規やガイドラインを策定して運用する体制がとられている。

【大学評価総評】

2012年度認証評価における努力課題への対応として、2016年度より博士後期課程にコースワークの導入が行われており、適切に対応が行われたと評価できる。なお、導入したコースワークの効果や改善点の検討が現状の課題として認識されているが、今後の取り組みに期待したい。また、2015年度大学評価委員会の評価結果に対しても適切に対応が行われていると評価できる。

情報科学研究科は、大学院教育の質向上を目指し、多岐に渡った独自の取り組みを実施している。表彰制度を設けた修士論文中間発表会、シングルトラックでの修士論文発表会、博士論文予備審査委員会主査の指導教員以外からの選出は特筆に値するものであり、今後の継続を期待する。情報科学部のカリキュラム改革に伴う研究分野の再編、ダブルディグリープログラムの更新など、今後の取り組むべき課題も明確になっており、これまで通りの精力的な取り組みが期待できる。